

東日本大震災から12年。復興が進んでいるかのように、
福島第一原発事故後の周辺地域は、
まだまだ震災前とは程遠い状況です。
福島では2万7千人を超える方々が自宅に帰還できず
避難生活を余儀なくされています。

東日本大震災 復興支援募金に ご協力をお願いします

カンパのお申込みは50号、51号、52号でできます

東日本大震災復興支援募金

015 一口 **200円**

016 一口 **500円**

何口でも申し込みます

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数を記入してください。

※【例】申込番号 **015** の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

3.11東日本大震災 亡くなられた方15,900人、行方不明の方 2,523人（警察庁2022年2月末）、避難者数3万771人（復興庁2022年12月13日）。

東日本大震災の大津波で多くの家屋、水産工場、小学校が流され、かけがえない多くの命が失われました。そして福島第一原発事故により、今もなお故郷に戻れずに避難生活を余儀なくされている方が多くおられます。福島の復興はまだまだこれからです。グリーンコープは福島県、宮城県、岩手県の被災地支援活動で出会った方たちへの支援活動を今後も継続していきます。

**3.11から12年たった今も
3万人を超える方々が自宅に
帰還できず避難生活を
余儀なくされています。**

これまでの募金状況

組合員とお取引先・その他から寄せられた
募金総額 （2011年～2022年12月20日現在）

3億4175万2313円

支援に活用 3億2268万7008円

残高 1906万5305円

避難者の推移

	2011年12月		
	県内	県外	計
岩手県	43,953	1,536	45,489
宮城県	122,557	8,603	131,160
福島県	95,200	59,464	154,664
計	261,710	69,603	331,313

東日本大震災復興応援
特設ページを開設
しています。ぜひご覧
ください！



グリーンコープ共同体
代表理事 日高 容子さん



毎年、たくさんの復興支援募金を寄せていただき、ありがとうございます。震災後の支援活動を通じて、宮城、岩手、福島などでつながりがうまれた団体の活動に共感し、活用させていただきました。

原発事故という問題にも直面してきた多くの方々がいます。放射能汚染、生活状況の変化に伴う悩みなど、深刻な課題を抱えています。それには長い年月が必要であるという理不尽さに憤りを感じます。

そのような中であっても、地域の高齢者の見守り、みんなで集える居場所が必要です。また、震災孤児となってしまった子どもたちへ心を寄せていけたらと思います。

福島の地に設立したグリーンコープ生協ふくしまとも連携し、グリーンコープらしい、人と人とのつながりを大切とする、心の通った支援を続けていきます。

(2022年12月13日 復興庁データ)

	2022年12月		
	県内	県外	計
岩手県	317	593	910
宮城県	703	1,374	2,077
福島県	6,392	21,392	27,784
計	7,412	23,359	30,771

東日本大震災復興支援募金にご協力をお願いします。

グリーンコープは今後も福島、宮城、岩手の被災地支援活動を継続していきます！

東京電力福島第一原子力発電所は廃炉が確定しましたが、福島県でグリーンコープが会った方々の復興はまだです。2019年に多くのグリーンコープ組合員が福島を訪ね、福島の被災地の状況を知り、交流を深めました。そしてわかったことは「今後も寄り添った支援・交流が必要」ということでした。

東日本大震災から間もなく12年になります。

福島県では、東京電力福島第一原発事故の影響もあり、まだ避難されている方は沢山おられます。避難解除されても安心して戻れない状況があると受け止めています。一方で、そんな中で帰還され、生活を始められている方々も居られます。



グリーンコープ生協ふくしま
理事長 武田 直美さん

それぞれの事情で生活場所を判断されていますが、それぞれに心配毎や相談したいことなどを抱えた方々が居られると思います。そして、これは福島県だけでなく、他県の被災地域でも同じ状況があると思っています。そんな中で、発災後から現在までグリーンコープではずっと組合員さんからの支援募金をもとに被災地に寄り添い支援活動を継続されています。本当に有難く、心から感謝いたします。繋がることで心の支えになっていると実感しています。

私たちも福島のお母さん達に寄り添っていきたいと思います。
これからも温かいご支援よろしくお願い致します。

震災孤児を支援する方々への支援を続けていきます。



花見山を守る会の拠点 ふれあいサロン「さくらの」では、福島県内の地震・津波・原発問題で避難を余儀なくされている方々への支援をしています。



グリーンコープは2015年花見山に桜の木を約200本植樹しました。

福島県 福島市 NPO 花見山を守る会

福島市内の「NPO花見山を守る会」高橋代表は3.11の東日本大震災より、復興支援活動を継続して行っており、花見山の植樹活動やサロンや手芸品作りなど開催し、サロンは震災で孤独になった方々の居場所になっています。

さらに震災孤児の19人の子どもたちに学校を卒業するまで経済的支援（一人に年2回15万円とクリスマスプレゼント）活動をされています。グリーンコープはこの活動を応援し、震災孤児への経済的支援の一部を「東日本大震災復興支援募金」から支出することを継続していきます。

6年間も故郷から避難されて仮設暮らしをされていた川内村の方々とのお出合いを大切に、今後も支援を続けていきます

福島県川内村は福島第一原発から10km～30kmに位置する村です。川内村で暮らされていた志田さんをはじめ村民の方々の多くは、原発事故発災後、直ぐに郡山市内の仮設住宅に6年間も避難されていました。2017年に仮設住宅退去の通知があり、現在は故郷の川内村に帰還されています。

志田さんは村で「横丁市場」を毎週開催し、村のコミュニティをつなぐ活動を続けられています。多いときには高齢者40人ぐらいますが、ベンチで総菜を食べ楽しく談笑したりカラオケ大会を開催したりされています。



グリーンコープでは、「横丁市場」を運営する志田さんの活動をサポートするために、キッチンカーを貸し出し、冷蔵庫設置やプレハブ店舗を支援しています。川内村に帰還された高齢者の方々の地域コミュニティが活性化するように今後も見守り続けていきます。



NPO法人 昭和横丁
代表理事
志田 篤さん



あの原発事故がなければ、村のどこの世帯も自宅には田畑があり、秋の収穫を終えると、1年分の米が蓄えられていました。春は山菜採り、秋はきのこを採り、少なからずの収入もありました。年金生活でも自然に恵まれて川内村で豊かに暮らしていけました。しかし、原発事故で6年間も仮設暮らし、村に戻っても自分たちで米や野菜を作ることもできず、働くこともできず心細い暮らしとなっています。

原発からの僅かな距離の差で賠償金が出る人と無い人がいます。また、介護、医療費の免除を受ける人、受けられなくなる人の格差も重く押し掛かり、お金の貸し借りなどもあり、人間関係も厳しいようがあります。